

2015 年度第2四半期決算発表
アナリスト・機関投資家向け説明会 質疑応答要旨

■日 時： 2015 年 10 月 27 日(火)16:45～17:30

欧州の利益の見方について、もう少し解説を頂きたい。ユーロやルーブルなど為替を上方修正しているのに、欧州は好転すると思ったが、通期では10億円ほど下げている。売価影響の見方を変えたのか？

- ・ 4 月の期初計画対比で説明すると、欧州全体の卸売台数は、225 千台の計画であり、期初から変更ない。
- ・ 西欧では 202 千台から 196 千台と減少して、車種構成は悪化するとみている。一方で、為替の好転がこれをカバーすることで、営業利益は 160 億円から 220 億円と、60 億円好転するものと見ている。
- ・ ロシアでは、ロシアルーブル高となった局面で競合他社との価格競争のため値下げを実施した。これにより、台数は増加したものの、その後為替が元に戻ってしまったため、売価でマイナス 41 億円の影響となり、合計では 70 億円悪化するとみている。

電動車両に注力していく中で、バッテリーの能力は現在50千台弱と認識しているが、今後どういったタイミングでバッテリーは能力増強していくのか？

- ・ 今年度のバッテリーの生産能力は 45 千台であり、今年度はこの台数をフル生産する。来年度は 60 千台まで拡大できる予定。
- ・ 60 千台以上に能力を増強するタイミングについては、『アウトランダーPHEV』に続く次の PHEV 車の投入時期、中国への新エネ車導入の時期、バッテリーの次世代化の導入時期などの要素を検討した上で決めていきたい。

足元好調な米国ビジネスのオポチュニティをどう考えているのか？具体的には、PHEV車の投入や小型系車種の充実など、中期的な見通しも含めて教えて頂きたい。

- ・ 北米は SUV が大きな市場を占めている。今後も当社の強みである SUV の車種を継続的に投入していくことがオポチュニティだと考えている。
- ・ 『アウトランダーPHEV』は来年度の半ばに投入する予定。当初の計画よりタイミングが少し遅れている理由としては、立ち上がりから高機能な安全装備を盛り込んで発売するため。
- ・ また、『アウトランダー』と『RVR』に加えて、新小型 SUV も北米市場に投入する予定。その PHEV バージョンも準備している。
- ・ 『ミラージュ』も好調で、初めて車を購入されるお客様を取り入れており、保有の拡大に繋がっている。今後も、製品の挺入れをして、台数を維持したい。

欧州の採算が多少悪化している理由は？ 下期は『アウトランダーPHEV』が増えて改善してくると見てよいのか？

- ・ 1Q では新しい 16 型の『アウトランダーPHEV』はまだ投入されておらず、損益も台数も減少したが、オランダや UK などでは出荷が2Q から3Q にかけて始まっているので、下期は更に改善すると見ている。
- ・ 上期の営業利益 100 億円の内訳として、1Q は 10 億円、2Q は 90 億円と2Q で大きく増益になっており、これが3Q に繋がってくる。

- ・ グローバルにおいても、期初計画の 45 千台の出荷に対して、現時点で順調に来ている。

市場措置費用が対前年上期で68億円増、対前年通期では120億円増と大幅減益要因となっているがこれは何か？一過性要因か？

- ・ 主にタカタ製エアバック関連のリコール費用を引き当てたもの。下期損益見通しにも織り込んでいる。

新小型SUVの考え方について教えて欲しい。車格がアウトランダーとRVRの間だと、ラインナップが窮屈になるのではないか？投入地域で分けるのか？3車種でカニバリが起きたりしないのか？

- ・ 新小型SUVはアウトランダーのプラットフォームを使い、全長・全幅はアウトランダーより少し小さいサイズ。アウトランダーの7人乗りに対し、5人乗りの車で考えており、現行RVRより一回り大きいイメージ。
- ・ デザインのイメージはアウトランダーがSUV的で、新小型SUVはスタイリッシュなクーペスタイルを考えている。
- ・ 次期RVRはBセグプラットフォームの低価格な車として位置付ける。アウトランダー・新小型SUVより小型のエンジンを載せ、差別化を図る。

以上